経営強化プラン策定委員会における意見のプランへの反映状況等について

●健診をもっとPRしてはどうか。健診のクーポン券をわたすとか。

→ご指摘を踏まえ、プランには、「(1) 役割・機能の最適化と連携の強化」において、「町内の唯一の医療機関として、疾病・傷病の治癒・健康維持を図る役割を担い、一次救急応需・かかりつけ医機能・回復期医療・健診の各機能を果たす。」と明記しました。

町では、健診受診率向上のために節目健診のフリーパス券や子宮頸がん検診、乳がん検診のクーポン券を対象者に配布して受診勧奨を行っております。当病院としても、より多くの方々から健診受診機関としてご利用いただくため、健診申込者の状況をつなぐるくん配信で紹介し、随時の予約を受け付けています。

●患者の移動手段に関する記述がない。

→ご指摘を踏まえ、プランには、「移動手段支援事業（住民ドライバーのマイカーを利用した公共交通）の利用による患者の利便性を図っていきます。」と明記しました。

具体的には、大井沢地区内において同地区の住民がドライバーとなり、移動ニーズのある同地区内の方が利用する公共交通サービス「ノッカルにしかわ」の実証事業を令和6年3月に行いました。その結果を踏まえるとともに、令和6年11月から病院利用者並びに「予約型乗合タクシー」利用者への聞き取り調査と分析を行っており、効率の良い「予約型乗合タクシー」の運行に活かしていきます。

●バスとかタクシーを待つ間に懇談ができる場所があるといい。

●診察を待つ間、テレビを見て座っているだけ。エクササイズできる場所を設けるなどどうか。

→町立病院前の商店から、商店内・付属する建物を活用して、診療後の待合場所にもなるような場所をつくりたいとの意向をいただいております。町では、地域にお住まいの高齢者をはじめとする町民の皆さまの「通いの場・集いの場」となる「いきいきお茶のみ会」の立ち上げと活動に対して補助金を交付して支援しております。

同商店では、今春から、茶のみができるようなスペースを設ける準備を進めると伺っておりますので、町としても「いきいきお茶のみ会」立ち上げ支援を念頭に応援してまいります。

●帰ってきてけローンと組み合わせられるような、人材確保のための施策があってもよいのでは。

→人材確保にあたっては、帰ってきてけローンのほか、西川町育英奨学資金貸与制度を設けております。本制度は、大学や短期大学、高等学校等在学中の学生に対して、月額2～3万円を無利子で貸与し、卒業後一定の期間、町内に住所を有し、かつ町立病院に医師または看護師として就職した場合に、奨学金を全額免除するものです。

本制度は、帰ってきてけローンと組み合わせることも可能ですので、さらなる周知を図ってまいります。

今回のご指摘を踏まえ、プランには、「町の教育ローン「帰ってきてけローン」や育英奨学資金貸与制度の周知により、病院勤務への動機づけを行い人材確保に努めます。」と明記しました。

●**医業収益より人件費が多い病院があるのか。**

→令和4年度の決算状況で見た場合、県内の公立一般病院で人件費が医業収益を上回っているところは当病院以外にありません。国が公表している病院経営比較表に基づき近隣の朝日町立病院の状況と比較すると、下記②や③などの要因により、①の医業収益の差が生じるものと考えられます。このことに関し、現プランでは、経常黒字化に向けた具体的な取り組みを明記できておりませんが、プランの改訂により、収益改善や費用削減に向けて、連携企業との省エネに向けた対応などによる収益向上や、国等の補助金の獲得に取り組むことを明記する予定です。

①西川と朝日では、人件費の差と比べて医業収益の差が大きい。

②西川は、入院、外来ともに患者1人1日当り診療収入が低い。

③西川は、病床利用率が低い上に平均在院日数も短い。

区 分	西川町立病院	朝日町立病院
医業収益	409,273 千円	489,888 千円
人件費	416,861 千円	469,243 千円
人件費／医業収益	101.9%	95.8%
1日平均患者数（外来）	89人	102人
1日平均患者数（入院）	14人	20人
患者1人1日当り診療収入（外来）	6,963円	7,381円
患者1人1日当り診療収入（入院）	27,340円	30,030円
病床利用率	31.9%	39.5%
平均在院日数（一般病床）	14.5日	18.3日
人口	4,956人	6,366人

●**繰入金があつて何とか黒字という状況だ。赤字の現状など突っ込んだ話をすべきでは。赤字なら何をもって黒字にしていくのか。**

→現プランでは、終期の令和9年度について、繰出金の拡大により単年度黒字化すると記載しています。

●**他の病院を利用している人を町立病院に回帰させる。人口が減少する中で、町立病院利用者を増やす手法はないのか。**

→休日や夜間の急患対応や救急搬送の受け入れを積極的に行っています。また、近隣の個人医院閉院に伴う新規患者の受け入れの調整のほか、町広報誌やつながるくん等を活用した情報発信を実施しました。その成果として、令和6年11月現在の延べ患者数の累計は前年度より1,222人多い18,807人になっています。

●**高齢者中心のプランという印象。小児科などに関する病院の考えはどうか。**

→当病院に小児科専門医はおりませんので、例えば小さなお子さんの急患に関するお問い合わせに対しては、看護師がお子さんの状態をお聞きし、当病院での診療対応が可能な状態かどうかを医師と相談して判断しています。状態如何では、小児科専門医のいる他の病院での診察を依

頼・紹介することもあります。小児科専門医がいないからといって門を閉ざすのではなく、必要な医療への入口として小さなお子さんのいるご家庭から信頼されるような存在になるべきであると考えています。

●**接遇に関する研修やクレーム対応などの勉強会を実施しているのか。**

→医療関係の様々な機関や団体の主催する研修会に職員を派遣しています。また、オンラインでの配信によるセミナーなども取り入れています。なお、令和4年度実施の町民アンケートでは病院の対応に関する否定的な意見が多数寄せられましたが、それらはコロナ禍での対応であり、現在はほとんどが改善されていることを昨年12月の「町民と病院職員との対話会」で紹介しました。

●**オンライン診療の課題（医療費のカード決済や薬の発送）は怎么样了か。**

→オンライン診療はCLINICS（クリニクス）アプリを活用しており、医療費はカード決済を行っています。薬の発送に関しては費用負担が発生し、場合によっては医療費の個人負担額よりも発送費用が高くなってしまいうこともあるため、今のところ実施はしていませんが、対応を検討しなければならない事項と捉えています。

●**建物が老朽化している。リニューアルの計画を盛り込んではどうか。**

→建物が築50年を迎える令和8年をめどに、将来担う機能を改めて見直し、建替えの検討を始めると明記しています。

●**ニーズベースなのかは別としても前向きな未来あるプランでもいいのかと。**

→多額の繰入金があっても赤字になっているという経営状況を踏まえ、現実に応じたプランとしています。

●**新病院ができる過渡期に町立病院がどのように関わるか。**

→プラン期間中に、建物の耐用年数や「西村山地域医療提供体制検討会」における議論を踏まえ「病院改革評価委員会」と行政により「病院のあるべき姿」を描き、町民に図りながら、「病院・有床診療所・無床診療所」「経営形態」について必要な意思決定を行うと明記しています。

●**診療予約などにタブレットを活用してはどうか。**

→定期通院されている方の予約は、診察の際に次の診察日を医師と相談して決めて、電子カルテ上で登録しています。新規の患者さんの場合は、あらかじめ症状などを詳しく確認する必要があり、その機能も含めタブレットでの予約は現時点でできません。ただし、予防接種に関してはタブレットやスマートホンなどによる予防接種の予約が可能なのではないかと考え、今後の検討事項としています。

●**高度医療機器を導入し町外患者を増やしてはどうか。**

→高額医療機器をはじめとする設備については、保守や管理のあり方に関する記載がありますが、

当 病院が確保すべき医療機能を踏まえ、町外患者の確保に向けた取り組みとの連携は念頭にありません。